

団体名	NPO法人岡山NPOセンター	活動タイトル	学校を越えて地域学を支える民間機関の設立プロジェクト	
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>	
<p>●望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>ビジョンは、すべての子どもが生まれ育った地域の良さやその社会システムを理解し、自らの意志で地域の中でのキャリアを見出せる社会。また、インターネット等で氾濫する情報の中で自分の軸を持ち、共助の気持ちを持てる社会である。小中高校そして大学とも連携しているソーシャルアクティブラーニングセンター（以下、SALCO）を設け、各地域で大人たちが自らの地域と仕事に誇りをもち、楽しんで暮らす中で、様々な大人や他者と接点を持ちながら子どもたちが生活している状態をめざす。</p>		<p>インターンシップの様子</p>	 <p>地域の生活文化の継承、育成と創造、および景観の保全を目的として活動する団体でのインターンシップ。地区すべての「街灯」を調べて種類別に地図に落とす作業。予算がとれたら「灯りイベント」の企画に繋げる。</p>
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>岡山に根差し、現実の一步先の取組と仕組みづくりとして以下をめざしている。 1) 日本における持続可能なまち（地域）運営モデルの実現 2) 互いの個性を尊重し誰もが暮らしやすい未来型コミュニティの実現 3) 市民社会の担い手と共に育ち続けられる組織としての確立。 あくまで仕組みづくりが役割であり、今回も学校を越えて地域学や市民教育を支えるSALCOという仕組みをつくることで、様々なプレイヤーが学校と連携しながら、子どものために活躍できる状況をつくることを社会的役割として目指す。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人材：SALCOでコーディネーターを務める兼務職員が2名程度存在する。また、SALCOに関わり、学校へコンテンツ提供を行う民間組織が複数存在する。 ●拠点：学校を越えた放課後の場としての拠点が県内3エリアに1つ以上存在する。 ●資金：地元自治体、学校、民間組織などの複数の組織・財源からの資金でSALCOの運営が維持され、SALCOを通じて、民間の寄付などを財源とした給付型の奨学金なども提供されている。 ●情報：各学校とSALCOが円滑に情報を共有するための仕組みがあると共に、子どもたち個々の体験や経験が可視化されて蓄積される仕組みがある。 			
<p align="center">■活動報告</p>		<p align="center">■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>SALCOの協力校・協力団体の開拓を目標に、以下に取り組んだ。</p> <p>1. 参加可能なプロジェクトの情報収集と提供：Lineを活用し、NPO・NGOインターンシップ・ボランティアの情報提供を行った。参加のハードルを下げることを意図し、NPO法人だっぴ協力の元、団体と学生によるインスタライブを実施するなどした。</p> <p>2. モデルプログラムの開発(1)：学生からの相談対応のほか、新たに専門学校からのボランティア体験に関する相談や団体のボランティア活動プログラムづくり等の相談に応じた。</p> <p>3. モデルプログラムの開発(2)：県内3大学と協働し、NPO/NGOインターンシップ及びアクティブラーニングに取り組んだ。新たに2大学とアクティブラーニングプログラムの企画実施に向けた検討段階まで進めた。</p> <p>4. 活動基盤強化：組織内の共有会議は継続実施している。新たに企業への働きかけを行い、2企業と意見交換を実施した。社内体制の都合上、次年度以降の取組として検討を進めている。</p>		<p>1. 参加可能なプロジェクトの情報収集と提供：Line登録者数は、目標315名に対し170名(54.0%)。そのうち情報活用を確認できたのは71名(約4割)。</p> <p>2. モデルプログラムの開発(1)：マッチングしたもののうち70%の団体・学生が、学びや理解を深めているという目標に対し、①インターン実施の3件に対し学びが確認できたのは2件(66.7%)。②企画立案支援1件は取組成果を確認できた(100%)。③団体からの相談4件は、ボランティア獲得等の成果を確認できたのは2件(50%)。</p> <p>3. モデルプログラムの開発(2)：民間の力を借りたアクティブラーニング実施に対して理解している教員3名獲得という目標に対し、インターンシップを協働実施できた大学は2校(教員2名)、アクティブラーニング実施は1校(教員2名)。加えて、実施に向けて協議を進めている大学が2校(教員3名)。</p> <p>4. 活動基盤強化：組織内の体制強化を図り、SALCOの仕組みについて1以上の自治体担当者が理解している状態をめざしたが、先に企業との実績をつくることに注力した。学生と連携した取組に関する意見交換を2企業とおこなった。</p>		
<p align="center">■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p align="center">■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ●一般的なインターンシップとの差別化 一般的な企業インターンとNPONGOインターンとの違いについて、大学教員と検討を進められるようになった。初年度に参加した学生については、団体の活動への継続参画のほか、研究テーマや進路選択について再考したり、学校周辺地域で学生主体での活動をおこそうとするなど、継続的かつ多様な行動変化を確認できた。職業に対する適性や条件確認ではなく「社会課題に対する気付き」とその中で自分がどう生きるか（行動するか）について考える機会になっていると思われる。団体側の価値としては、採用活動の一環というより「事業の担い手」や「スタッフの人材育成」という要素が強い。 ●学生への情報の届け方 直接的な繋がりのある学校教員や友人などからの情報提供が参加判断に大きな影響を与えている。各種媒体での情報発信は継続しつつ、ボランティアやインターン、授業対応など幅広い機会を活用すると共に、本取組に理解を示し情報を伝えられる教員との繋がりを増やしていくことが参画を促す近道と考えられる。 		<p>本取組における学生側の価値は一定程度明らかになりつつある。今後取組を拡大していくために、学生の参画が団体・地域社会にもたらす価値について具体的に示せるように、関係者と仮説を立てながら事業を進める。</p> <p>1. 参加可能なプロジェクトの情報収集と提供：学生の参加率向上のために情報(分野)の偏りを減らすと共に、学生参加の社会的価値を高めるために情報の質の担保と可視化に取り組む。</p> <p>2. モデルプログラムの開発(1)：数の多い個別相談での繋がりを十分に生かし切れていないため、相談対応後の接点の設け方について改善を図る。</p> <p>3. モデルプログラムの開発(2)：ひとりの教員が対応できる限界も見えつつあるため、「同一大学・他学部」の教員など、新たに協力を得られる教員を増やす。</p> <p>4. 活動基盤強化：企業と協働するにあたり、企業側のニーズや協働しやすい形について、具体的に把握する必要がある。同時に、NPONGOインターンシップを実施した際の「団体側の価値」についてさらなる把握に努め、可視化する方法を検討していきたい。</p>		
<p>この1年間の活動を通じて</p>			<p>●71名のLineの情報活用、●個別相談からのマッチングで、62.5%の個人・団体で成果を確認、●協働する大学教員の増加、2企業との意見交換等、協力校/団体の一定程度の開拓</p>	<p align="center">を達成しました。</p>
<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>SALCO（Social Active Learning Center Okayama）のインターンシップやコーディネートを通じて活動に参加した学生については、研究テーマや進路選択について再考したり、学校周辺地域で学生主体での活動をおこそうとするなど、活動後も多様な行動に繋がっていることが確認できた。団体からも、理念への共感や継続に繋がるボランティアの獲得に繋がったという声を得られた。</p>	